

＜株式会社エフエム東京 第355回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：平成21年2月3日（火）

2. 開催場所：エフエム東京 本社10階 大会議室

3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）

◇出席予定委員（6名）

子安美知子 委員長 青池慎一 副委員長

内木文英 委員 香山リカ 委員

横森美奈子 委員

渡辺貞夫 委員

◇欠席委員（1名）

内館牧子 委員

4. 議題

番組試聴：「SEIKO presents ゆく年くる年～一秒の言葉」ダイジェスト版
2008年12月31日（水）23：00～2009年1月1日（木）1：00 放送

（試聴時間：約20分）

＜議事内容＞

議題1：最近の活動について

◎FM FESTIVAL RADIO AWARD IN JAPAN “LIFE MUSIC 2008” 大賞決定

JFN38局のラジオ局が一丸となって決定する、ラジオ史上最大規模の音楽アワード「FM FESTIVAL RADIO AWARD IN JAPAN “LIFE MUSIC 2008”」の受賞が12月3日の特別番組で発表され、大賞にあたる「LIFE MUSIC OF THE YEAR」には、リスナー投票を最も多く獲得した「キマグレン」の楽曲「LIFE」が選出されました。

彼らは逗子を拠点に活動する男性2人組で、昨年夏、この曲が全国のFM各局のパワープレイに選ばれ大ブレイク。生きる意味を問いかける歌詞、心を揺さぶるサウンドなどが多くのラジオリスナーからの支持を集め、結果として、まさに“LIFE MUSIC”にふさわしい受賞となりました。なお、約1ヶ月間にわたるノミネート楽曲へのWEB投票総数は、約5万件を集めました。

◎「ポエトリー・リーディング～Think about AIDS」第3弾実施

「ヒューマンコンシャス～生命を愛しつながら心」キャンペーンを具現化するイベントとして、12月16日に、HIV/AIDSについて考える「ポエトリー・リーディング～Think about AIDS」をTOKYO FMホールで実施しました。

このイベントは、昨年12月から、TOKYO FMとNPO法人ふれいす東京のプロジェクト

「Living Together計画」が共同して実施しているキャンペーン“Think about AIDS”の第3弾として実施。今年も、HIV陽性者とその家族・恋人たちの手記の朗読や、番組出演者やゲストミュージシャンのパフォーマンスを通じて、「HIVと共に生きる」＝“Living Together”というメッセージを発信しました。

◎「NISSAN あ、安部礼司」7時間半特番放送・脚本集第2弾も発売

12月23日（祝）に、7時間半の特別番組「NISSAN あ、安部礼司～電リク！今ツボだらけのくりすまスペシャル」を生放送（11:30～19:00）しました。番組人気キャラクター総出演による生放送電リクや、4時間にわたる長編ラジオドラマ「安部礼司 The Movie！」を放送。さらに、夕方からTOKYO FM渋谷スペイン坂スタジオに移動し、曇りガラス越しに放送する“シルエット公開生放送”を実施し、全国から番組ファンが駆けつけました。また、3月8日に渋谷C.C.Lemonホールにて開催するイベント「NISSAN あ、安部礼司 ウェディングパーティー ～本気でオンリー優～」のチケット先行予約受付を番組内で実施したところ、1,200枚がすぐに完売となりました。

さらに、脚本集第2弾『あ、安部礼司 脚本集 SEASON2』を12月19日に発売。AmazonでのWEB限定販売で1万3,000部を即完売した、2007年10月発売の第1弾に続き、第2弾も既にAmazon和書総合ランキング、TSUTAYA online本ランキングで1位を獲得。また、全国の日産自動車販売店で番組ステッカープレゼントを実施しておりますが、全販売店での「来店のきっかけ」アンケートで「同番組を聴いて」という回答（24.1%）が2位のテレビ番組（13.6%）に2倍近くの差をつけてトップとなるなど（アンケート内容は日産自動車の社内資料）、高聴取率と同時に、コンテンツクロスメディア展開においても、音声放送番組での象徴的な成功事例となっております。

◎SCHOOL OF LOCK！×幻冬舎 10代限定文学新人賞「蒼き賞」受賞作書籍発売

SCHOOL OF LOCK！と幻冬舎のコラボレーションで共同創設した、10代限定の文学新人賞『蒼き賞』の第1回グランプリが、16歳の女子高生「ベニ」さんの「孤独星」（こどくぼし）に決定しました。この作品は、西暦3000年代、世の中から「星」が抹消された世界で出会った高校生の孤独な男女が、星の存在を追いながら紡いでいく、小さな恋物語。

<第355回放送番組審議会議事録>

この文学賞では、「世界が終わる夜に」という共通テーマをもとに、作品のあらすじと第1話のみの“未完成作品での応募”を実施。全国から3,000に及ぶ作品が集まり、この中から番組スタッフ、幻冬舎スタッフによる選考で、最終ノミネート6作品を選出。ノミネート作品に選ばれた作者は「SCHOOL OF LOCK!」のPC&携帯WEBサイト上にて、10週間にわたり、週一回の連載を行い、第十話で作品を完結させました。連載中それぞれの作者には、幻冬舎の編集者が伴走し、さらに、作品ごとに「リスナー感想掲示板」を設置。全国のリスナーからの応援や励ましのメッセージ、感想や意見などのリアクションを参考にしながら、作者は物語を完成させました。作品完成後、リスナーによる投票、審査員による審査を行い、グランプリ、準グランプリ、審査委員特別賞の3作品を選出。3作品は1冊の書籍にまとめられ、2009年1月23日（金）に幻冬舎より発売されました。

議題2：番組試聴

【番組名】 「SEIKO presents ゆく年くる年～一秒の言葉」

【放送日時】 2008年12月31日（水）23:00～25:00放送

【制作意図】

「はじめまして」「ありがとう」「おめでとう」…「一秒の言葉」とは、一秒ほどの短い言葉で伝えることができる様々な想いを表現した1984年製作・放送のセイコーのラジオCMが始まりです（TOKYO FMで最初に放送）。1985年にはテレビ版CMも放送、「学校の授業で使いたい」「結婚式のスピーチに使いたい」といった問い合わせも多く、2008年6月から放送のリメイク版CM「一秒の言葉2008」も反響を呼びました。

そして、2008年大晦日の夜、セイコーの提供により特別番組「一秒の言葉」を放送しました。一秒ほどの短い言葉に込められた想いとは――？ 想像力をかきたてるテーマであり、08年と09年の世相を踏まえながら、一秒の言葉に託した生活者の気持ちや言葉の背景、言葉のコミュニケーションの大切さを伝える演出方針で臨みました。リスナーにとっての「一秒の言葉」を、全国FM38局が合同で行う特別企画のテーマとして位置づけ、各地区のリスナーを巻き込んだキャンペーンを繰り広げていく企画として展開いたしました。

【番組内容】

11月の1ヶ月間、JFN38局で「あなたにとっての一秒の言葉とそれにまつわるエピソード」を募集。その土地独特の言葉の彩りを生かし、パーソナリティの体験談を交えて呼びかけたところ、3200編以上の言葉が集まりました。その後、WEB投票により選ばれた各局の優秀作・計38編をHP上で発表。12月6日から、最終WEB投票を受け、この特別番組で、大賞を発表しました。

<第355回放送番組審議会議事録>

パーソナリティは、音楽プロデューサーの松任谷正隆と元TOKYO FMアナウンサーの柴田玲。当日発表された受賞作の言葉は、グランプリ受賞作「また、あした」(TOKYO FM)／第2位「そんなに頑張らんでええよ」(広島FM)／第3位「遅すぎることはないよ」(FM OSAKA)／松任谷正隆賞「いってらっしゃい」(FM岩手)でした(38篇の優秀作及び、受賞作の言葉とエピソードは別紙参照)。

その他、言葉のもつコミュニケーションの素晴らしさを伝える象徴として、年越しの時間帯には、盲目のピアノミュージシャン・木下航志のスタジオライブと詩の朗読、新年にはオバマ新大統領就任を迎えるNYからの中継レポートや、家族との間で交わされる言葉をテーマにしたラジオドラマなどを、織り交ぜて放送いたしました。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- いい番組ですね。紹介された応募作品は、其々どの言葉も良かった。その言葉に込められた状況をきくと、温かい気持ちになれて、こういう番組が普段の放送でも、もっとあるとよいと思った。昔の企画のリバイバルというところは惜しいところだが、こういう番組であれば、アンコール放送もあってよいのではと思う。
- 以前、学校の卒業式で挨拶をする機会があり、子供たちに「おめでとう」と言ったところ、「ありがとうございます」といわれ、「ありがとうという言葉は良いものだ」と思って、そのまま、ありがとうという言葉に込められた思いについて語ってしまったことがある。言葉の持つ力とは、そういうものかなということ、この番組を聴いて改めて考えさせられました。
- ラジオだからこそその企画。ラジオ番組とは何かということ、そして、物理的に一秒で発せられた言葉でも、その裏の気持ちは100あるということ、パーソナリティの松任谷さんがとても理解されていて、非常に良いコメントをしていた。また、今の時代にも、リスナーの方々の中でこのようなコミュニケーションが行われているということを知って、温かい気持ちになった。松任谷さんは、物事をしっかり捉えられていて、声も良い。柴田さんも、TOKYO FMアナウンサー時代から素晴らしかったが、フリーになられて、さらに幅を広げられてような印象を受けた。

<第355回放送番組審議会議事録>

- 非常に内容は良いだけに、こういう番組を聴きながら過ごす大晦日とは、どんな聴取状況をイメージしているのか、どういうターゲットを考えているのかが、やや疑問に感じました。
- あえて様々な内容を散りばめた構成にすることで、放送時間中のどこから聴いても入りこんで頂けるよう工夫し、様々な過ごし方をしているであろう大晦日のリスナーを意識した番組作りをいたしました。
- この番組を発展させて、継続的に“今日の一言”のようなコーナーがあってもよいのでは、と思った。
- 大晦日にラジオを聴いている人たちというと、受験生や工作中、療養中などの方が中心になってくるのかもしれないが、そういう人たちに励みになる内容だったと思うし、大晦日の年越しの時間帯にこうした番組を放送することに、企業ポリシーを感じた。また、今の時代は「このままでいいんだよ」「頑張らなくていいんだよ」など、優しく癒しを感じさせる言葉が多く、時代性を感じた。若い世代にもこうした番組を聴いてもらえると、言葉の重みなども感じられるのではと思った。
- 例えば、戦時中などには、「いつてらっしゃい」という言葉にも別の意味合いがあった。現在は安心があるからこそ言える、そんなところにも、平常な社会を感じた。短い言葉は、むしろ、その言葉を受けた方にとって意味のある言葉になっていく。ラジオの真価が発揮できる企画であり、“短くうまく伝える”ということの重要性が増していると感じた。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」
2月27日（金） 5：00～8：30放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

<第355回放送番組審議会議事録>

③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は3月3日（火）に開催することを決めた。

以 上